

## 美容福祉に求められる可能性



### 「第17回登録理美容師の集い」開く

厳しい暑さが続く8月27日、山野美容専門学校で開催しました「第17回登録美容師の集い」にご参加されました登録理美容師・理事・事務局のみなさま、日頃より当法人の活動に対しご支援ご協力を賜り、誠に有難うございます。心より感謝申し上げます。

NPO全国介護美容福祉協会は、「美容福祉」に関する教育・実践の重要性を日本で初めて提起した故山野正義総長によって設立され、2002（平成14）年に内閣府の認証を受けて今日に至っています。この間、取り組んできました「①理美容福祉サービスの提供に関する事業」「②理美容福祉の安全性等の向上を図るための普及啓発事業」「③機材器具販売業、理美容福祉サービス提供及び機材の販売」の各事業は、みなさまの積極的なご賛同とご参加によって、着実に成果を上げています。

しかしながら日本社会がおかれている「少子高齢化」問題は、予測を上回るスピードで進行しています。

厚生労働省が発表した2024年度の高齢社会白書によると我が国の65歳以上人口は、1950年には

総人口の5%に満たなかったのですが、1970年に7%を超え、さらに、1994年には14%を超えました。高齢化率はその後も上昇を続け、2023年10月1日現在、65歳以上人口は、3,623万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も29.1%となり、近い将来日本人の3人に1人は高齢者となることが発表されました。

超高齢社会にあって、美容は高齢者にとって心身をリフレッシュさせ、生活の質（QOL）向上の維持・改善に貢献するとともに、健やかな高齢社会、地域住民が支え合う地域共生社会の構築のため求められる大切な課題となってきました。当法人は設立以来22年間が経過しましたが、「美容福祉」の理念に基づいて登録理美容師のみなさんの活躍の場がますます求められていると言っても過言ではありません。

事務局として、引き続き皆様のより良い活動を支援するとともに今後とも登録理美容師の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

事務局長 荻野 道人

# AIでは不可能な美容福祉に確信を

山野愛子ジェーン NPO全国介護美容福祉協会理事長



「第17回登録美容師のつどい」にご参加されたみなさま、暑い中、誠にありがとうございました。そして、全国各地で、高齢者と障がいのある方がたが、「生きるほどに美しく」という目標を持って、日々の生活を送ることができるように、訪問美容に取り組まれていますことに、心から敬意を表します。

日本では想像できませんが、世界に目を向けると、ウクライナとガザでは、大きな戦争が続いています。戦争で得るものは何ともありません。日本で平和に暮らせることが当たり前と思わず、一人ひとりが平和について考えることが大切であると考えています。

山野学苑は初代校長を務めた山野愛子が昭和初期から継続した美容教育経験を踏まえて培った「髪・顔・装い・精神美・健康美」の美道五大原則に基づく「美道」の追求・実践を建学の精神としています。特に「精神美」及び「健康美」について考

えることが大切で、人々に癒しを与えることのできる美容の力を改めて認識したいと思います。また、日本の少子化についても問題となっておりますが、美容室、ホテルやレストランで働き手を確保するのが難しい時代にあって、美容業界においては山野学苑の卒業生が大きな美容サロンを経営し、また各地で、リーダーとして活躍しています。これは山野学苑の誇りです。

そして日本が高齢化社会になることを想定して、山野正義総長はいち早く「美容福祉」に関する理論・教育・実践を提唱しました。その実践の面で成果をあげている本NPOの登録美容師のみなさまのご活躍は、本当に意義あることだと心から嬉しく思います。

一方、大きな地震や強烈な台風も多く発生して何が起こるか全く分からない時代ですが、世界では人口知能(AI)の研究・開発・導入が急速に進んでおり、医療分野では病気の早期診断や治療の最適化に大きく貢献する時代となっています。しかしどんなにAIが発達しても、美容福祉に基づく皆さんの活動は、AIにとって代わることは不可能です。自分自身の意思でその人らしい人生を送るために、その相手に寄り添って美容が提供できる登録美容師の皆さんは、益々社会から求められる存在です。

本日の集いが、こうした問題に対しても考えるひとときになって欲しいということをお願いして、有意義な、そして楽しい集いになりますことを願って、開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 美齡学・美容福祉推進のための提案

大西 典子 山野美容芸術短期大学美容福祉事業研究センター

## はじめに

1999年に山野美容芸術短期大学に「美容福祉」の教育機関として「美容福祉学科」が開設され、同時期に研究機関として「日本美容福祉学会」が設立されました。また具体的な実践の場の受け皿となっていたために、理美容師の皆さんにホームヘルパー研修（現在の介護職員初任者研修）を実施し、修了者に美容福祉師の認定を行っていました。現在は、美容福祉技術講習を受講した理美容師の皆さんに、福祉美容師の資格認定もしております。

こうした実践家の研修と実践活動を推進する機関として、本 NPO 全国介護美容福祉協会が 2002 年に設立されました。その後 20 年以上のみなさまの実践により、高齢者や障がい者、がんや認知症、精神障害など様々な困難を抱えた方々の美容が進められました。ケアとしての美容手段にも、ヘアメイク、フェイシャルケアやネイルケア、ハンド・フットケア、車いす利用者の装いなど、様々な開発がなされました。

そして、20 年以上実践したみなさまが一番に気づいていらっしゃるのだと思いますが、社会の状況の変化に対応していくためには、今こそ、美容福祉の実践と人材育成について見直しと改善が必要になっています。特に、医療や福祉などでも美容の需要は高まっています。そうした中、求められているケアとしての美容の質の向上と実践を収益につなげることで、より市場価値を高める時期になっていることも強く感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで、開設当初の美容福祉がめざした社会をもう一度振り返り、20 年以上が経過したからこそ見えてきた課題に、美齡学と美齡ケアが何をめざしているのか、そして人材育成も含めたしくみの見直しと改善について順番に述べたいと思います。



## 1 美容福祉がめざした社会

1985 年の日本には、「寝たきり老人」という言葉がありました。そのころの日本では、足腰の弱くなった高齢者は、病院だけでなく高齢者施設でも寝間着を着て 1 日中ベッドに寝ていました。このような環境で、できるはずのことさえ介護されることで、むしろ介護されなければ何もできない状態になっていきました。ところが、同時期のデンマークでは、日本の「寝たきり老人」と同じ身体機能レベルのおむつをした高齢者でも、車いすに乗り、お気に入りのワンピースに着替え、おしゃれをして出かけるための身支度をし、表情も日本のベッドの上の高齢者と対照的に生き生きしていたと、大熊<sup>1)</sup>は述べています。

つまり日本の「寝たきり老人」とは「寝たきりにされ何もできなくなった高齢者」であったのです。2000 年の介護保険制度には、そのような日本のあり方を変えるための施策が盛り込まれていました。

1999 年に開始した美容福祉教育がめざしたのは、まさに北欧のような高齢者介護が実践できる美容福祉師の育成でした。しかし、医療や介護の現場が、このような意識になるまでには時間がかかりました。

## 2 医療や介護と美容

1990年代になっても、医療や介護現場では、美容は不必要な行為でした。むしろ化粧をすると健康状態が確認できないため、しないようにすすめられていました。また、これまで経験のないほど長寿の高齢者が増えると、高齢になってどのような生き方をすればよいのか、前例がないために高齢者自身も戸惑っていました。

そのため1993年に行われた、認知症の人に化粧を行った研究結果は、医療や介護が、化粧をケアとして取り入れることの意義を示すものとなりました。40名の認知症の高齢者のうち、化粧を行ううちに11名のおむつが取れたという結果は、特に注目を集めました。<sup>2)</sup>

こうした研究データを示すことは、特に、人の意識を変えるためには重要です。山野学苑には、こうしたケアとしての美容を実践することの意義について、説得力のある説明にするための研究や教育を行う機関として、前述した「日本美容福祉学会」があります。ヘアメイクはもちろん、ネイルケアやファッションなどの美容に、ケアとしての意義を示すための研究がすすめられるようになりました。

しかし、ここで十分注意しておきたいことは、前述の研究もそうですが、化粧をただで高齢者が増えたわけではないということです。活動するための身支度として化粧を行い、さらに、ケアスタッフがそのあとの活動を進めたことが、高齢者の変化、効果につながっています。美容だけではおむつが取れることはありませんし、医療や介護でも困難だったことです。つまり、これから考えるべきことは、

美容が福祉や医療と適切に連携することで相乗効果につなげることです。これが美容だけではない「美容福祉」の重要な点です。

## 3 美齢学をめざす社会

「美容福祉」は、次第に要介護者のための「訪問美容」だけを示すように考えられるようになっていきますが、前述したように、ケア手段としての美容をさしています。要介護者だけでなく、いま対応しなければならぬのは、徐々に自立度が低下する人たちです。高齢になっても自立を維持するためには、いつまでもおしゃれをして人と交流したり、外出を楽しむことが大切です。

山野学苑は2011年から「ジェロントロジー」を取り入れました。「ジェロントロジー」とは、加齢学、老年学とも訳しますが、長寿社会の課題に、様々な学問や実践を総動員して解決を図ろうとする学問のことを言います。この社会課題に対して山野学苑では、美容を手段に解決を図ることを考え、研究するために「美齢学」と名付けました。そして、そこで提供されるケアを「美齢ケア」と呼んでいます。

この「美齢ケア」という言葉は、要介護者のための「美容福祉」という認識を変え、予防も含めた超高齢社会に対応する高付加価値のケアにしたいという意味もあります。何より適切な収益事業としての美容を考えることは、事業継続性を高めるためには重要な視点です。

また、がんや認知症があっても地域で生活している人たちが増えたこと、美容の健康効果も研究されるようになったことなどにより、美容が対象とする範囲が拡大しました。こうしたことから、様々な対

表1 美容福祉師の資格段位と資格要件（一般社団法人日本美容福祉学会定款第4条第4号に基づく美容福祉師資格認定基準（26.6.3改正）より抜粋）

資格段位	資格要件（要点のみ）
美容福祉師上級	美容師免許と社会福祉士資格を有するもの
美容福祉師1級	美容師免許と介護福祉士資格を有するもの
美容福祉師2級	美容師免許を有し介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)を修了した者
福祉(理)美容師	美容師免許を有し、日本美容福祉学会が実施する「美容福祉技術講習」を修了した者
美容福祉サポーター	介護福祉士・介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)などを修了した者で、日本美容福祉学会が実施する「美容福祉技術講習」を修了した者

象の特性を理解し、適切な美容を専門的に提供できる人材育成が求められるようになりました。

山野学苑では、「美容福祉」の考えかたを拡大し、現代の社会課題を見据えた知見により、連携する様々な分野の人たちとのコンセンサスをとることを目的として、テキストに整理しているところです。



図1 美容福祉師の資格段位と認定者数  
(2024. 3. 31 現在)

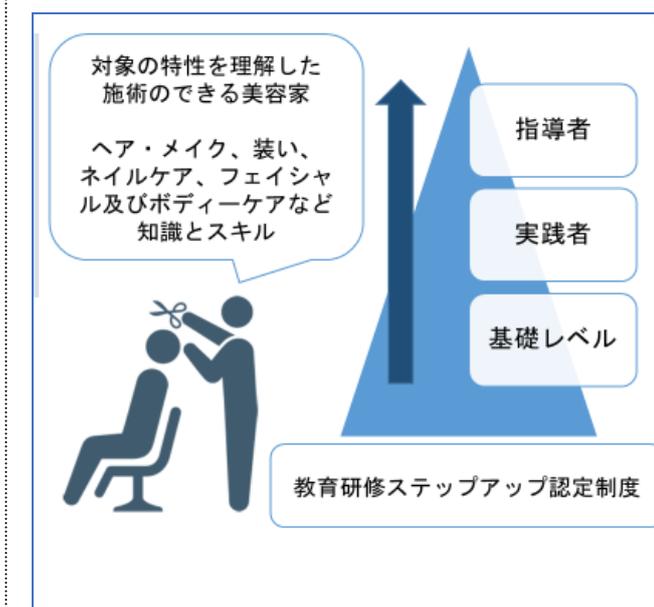


図2 美容福祉師指導者資格のアップサイクル (案)

## 4 「美容福祉」の資格のアップサイクルについて

美容福祉学会には、5つの資格、段位を認定する資格制度があります。図1の示す通りです。現在の認定者数は、13,000人以上となっていますが、現在の資格段位は表1のように美容師と社会福祉関係の資格によるもので、個人の学習や実践・研究が反映されていません。そこで新しいテキストの作成と同時に、図2のように資格をアップサイクルな形にし、ケアとしての美容の提供について講義する、研修会などの講師として活躍していただける仕組みを作りたいと準備しているところです。すでにNPO登録美容師のみなさまは、「美容福祉」を学び、実践し、このような集いや学会に参加されています。こうした積極的な取り組みが今後は反映できる仕組みにし、ケアとしての美容を広く周知する伝道師となっていられるようにしたいと考えています。

## 5 まとめ

デンマークでは、「介護福祉士」は、国家公務員として地位や所得も安定して働いています。そのうえ高齢者は「高齢者三原則」の考え方で守られています。<sup>3)</sup>

### ■高齢者三原則

#### ■高齢者三原則

- ・自己決定の尊重：  
高齢者自らが決定した暮らし方を尊重する
- ・自己資源の活用：高齢者の残っている自己資源（残存能力）を活用する
- ・継続性の維持：高齢者の生活をできるだけ変化させずに支援する

そのため、近年のデンマークの高齢者施設には、専門の美容室やネイル・フットケアサロンもあり、そこには個々の状態に専門的に対応してくれる、まさに私たちが求める形の美容福祉師に近い専門家がいます。高齢者がおしゃれをして生活を楽しむのは、当然の権利だからです。日本の「美容福祉」は、こういった発展は難しいでしょう。ただし、このケアとしての美容の価値を高めるためには、収益事業

の在り方と人材育成の拡大につなげるための資格制度の見直しが必要だと思っています。

最後に、美容に携わるみなさま、そして現代社会での生きづらさを抱えつつもみなさまとのつながりを求めていらっしゃるお客様に、人生の意味につながる3つの行動について、ヴィクトール・フランクル<sup>4)</sup>の言葉を用いてお話ししたいと思います。

まずは、「目のまえのことを夢中でやってみること」です。例えば、お客様の期待によりそうヘアスタイルをつくり、そのことがお客様の自信につながれば、夢中で取り組めた自身の人生に価値を感じられるはず。また、「芸術や自然、人との出会いなど美の体験をすること」と言っています。こころのときめくような体験もですが、私は本当に疲れたとき、自分の一番好きなものを食べられたとき「あー、美味しい、生きていてよかった」ところが動かされますが、皆さんはどんなときそのような気持ちになれるか。また3つ目にフランクルは、「苦悩」すること自体に価値があると考えています。そして「困難に対してどのような態度をとるかということのうちに、その人本来のものが現れ、意味のある人生が実現される」としています。著書『それでも人生にイエスと言う』の中で、終末期にある男性が、当直医のフランクルに、「自分は今夜死ぬが、死の数時間前にモルヒネを打つようにと指示が出

ており、そのとき先生の安眠を妨げたくないので、今のうちに注射を済ませてほしい」と言います。究極の困難な状態にあっても、人を思いやることのできるこの男性の態度は、悲しくなるほど美しいと感じます。もしかすると「美しく生きる」という生き方は、この困難に対する自分自身の態度によって、実現されるものなのかもしれません。

まだまだ、「美容福祉」にしても「美齡ケア」にしても課題はあります。しかし同じ思いをもつ私たちが、力を出し合い、前に進めていくことが、未来を創っていくのだと考えます。ぜひみなさま、お力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

### 参考文献

- 1) 大熊由紀子「老いても美しく輝くために」日本公共政策学会 年報 1998
- 2) 速水満子 「粧う 化粧すれば生活の自立が活性化する 鳴門山上病院の試み」月刊 総合ケア Vol.4 No.11 1994
- 3) 猪狩典子「デンマークに学ぶ高齢者福祉—政策イニシアティブが生み出すユーザー参加型社会—」智場 intelplace #118 March 2013
- 4) V.E.フランクル 山田邦男, 松田美佳(訳)『それでも人生にイエスと言う』春秋社 2013

一社) 日本美容福祉学会

## 第23回学術集会ご案内

日時

2024年11月16日(土) 13:00~16:30  
ZOOMによるオンライン開催(参加無料)

<https://forms.gle/d1oAWQD3QHUi8piX7>

お申し込みは  
こちらから



テーマ

「ケアとしての美容と美容福祉・美齡学を考える」

### 講演

- 大西 典子 「美容福祉・美齡学の人材育成システムの新展開について」
- 福井志穂子(株wellsui代表) 「ケアとしての美容を活用した美容特化型デイサービス」
- 野中 美紀(株SUMIKIL代表) 「アピアランスケアとして地域理美容室に提案したい  
ウィッグの提供のしかた」

主催 一般社団法人日本美容福祉学会  
日本美容福祉学会第23回学術集会実行委員会

後援 学校法人山野学苑 山野美容芸術短期大学  
山野美容専門学校

協賛 NPO全国介護美容福祉協会

# 髪のない人々と美容師を繋ぐ架け橋

～信頼関係が拓く新たな可能性～

土屋 光子 特定非営利活動法人 Alopecia Style Project Japan 理事長



今回の講演では、髪のない人々と美容師の皆様との関係性について、そして互いの理解を深めるための取り組みについてお話しさせていただきます。

美容室は多くの人にとって、美と癒しの象徴であり、自己表現の場です。しかし、私たち脱毛症などヘアロス症状を持つ人々にとって、美容室は憧れの場所でありながら、同時に高い心理的ハードルがある場所でもあります。その理由は主に二つあります。

一つ目は、外見に関する不安です。髪の毛がないことで、他の客や美容師の目が気になり、居心地の悪さを感じてしまうのです。二つ目は、適切なサービスを受けられるかという懸念です。ヘアロスに対する理解や経験が不足している美容師に当たってしまうのではないかと、という不安が常につきまといま

す。日本国内には、ウィッグカットを学べる団体はいくつか存在し認知は広がってはいるものの、実際に利用するヘアロス当事者はそう多くありません。自宅から遠い美容室へウィッグをカットしに通っている方が多いのが現状です。

美容室の店舗案内に「ウィッグカット可能」と記載されていても、実際に訪れる勇気を持たず、その背景には、美容師の方々が本当に脱毛症の悩みを理解してくれているのか、という疑問があります。

また、ヘアロスの症状によっても、進行や形態によって当事者が抱える悩みは千差万別です。そのため、訪問のたびに自ら症状や悩みを一から説明しなければならないという負担が、美容室を訪れる際の大きな障壁となっています。

さらに、多くの当事者から「個室対応が可能な美容室を望む」という声も寄せられています。プライバシーが守られる環境は、ヘアロスの人々にとって非常に重要です。外見に対する悩みは個々の感覚に深く結びついているため、安心してサービスを受けられる空間の確保が必要だと感じています。

しかし、私は美容師さんの高い技術とコミュニケーション能力があれば、最終的には信頼関係が築かれ、環境の整備は後からついてくるのではないかと考えています。これが、美容師さんのスキルと心のこもった対応が、私たち当事者にとって大きな力となり得る理由です。



私自身、来客として美容室を訪れた際にも、環境や設備よりも美容師さんとの信頼関係が何よりも大切だと感じました。私たち当事者にとって、たくさ

んの情報が飛び交う中で「信頼できる情報」を選び取る力が必要です。美容師さんとの信頼関係が築ければ、安心して髪の相談ができ、サービスを受けることができます。この信頼があることで、美容室が私たちにとって特別な場から、心地よい日常の一部へと変わります。



私たちはこれまでに 10,000 人以上の当事者やそのご家族から伺った貴重な意見をまとめ、それを基に美容師さんたちと共有するための資料を作成しました。この資料は、時間がない美容師さんにも気軽に学んでいただけるよう、3分程度の短い動画形式でまとめています。

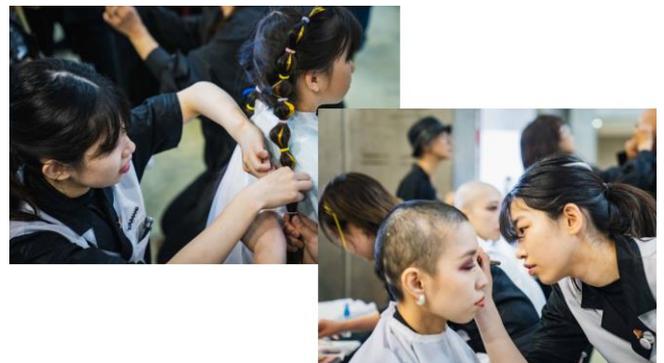
動画では、髪の毛がないという一つの症状が、日常生活においてどのような影響を及ぼすのかについて、具体例を交えながら解説しています。何気なく発した言葉に過度に反応してしまい、非常にセンシティブに受け取ってしまう場合があることも改めて強調しました。

このような知識は、私たちの講座を通して学んでいただけるとともに、美容師さんたちが実際の現場でお客様とのやり取りの中で得ていくものであると

考えています。講座では、ただ知識を提供するだけでなく、美容師さん自身が当事者との交流を通じて新しい視点や理解を深めていただけるよう工夫しています。

例えば、当事者が抱える精神的なプレッシャーや、社会的な制約についての実体験を共有する場を設けることで、より具体的なサポート方法が見つかるかもしれません。これが、美容師さんと私たち当事者が共に成長し、より良い関係を築いていくための第一歩だと信じています。

私たちの目指す社会は、髪に症状があることをハンデとしない、誰もが心地よく過ごせる場所です。髪の状態に関わらず、誰もが美しく輝ける未来を作り上げるために、これからも美容師の皆様や教育関係者、そして当事者が一丸となって取り組んでいく必要があります。



皆様にとって新たな気づきや学びの機会となり、ヘアロス当事者との関わり方について考えるきっかけになれば幸いです。共に手を取り合い、より inclusive な美容業界、そして社会を築いていけることを心より願っております。



<https://aspj.site/>

# 「美容福祉の実践事例集」の作成

佐野 美恵子 「訪問健美美容・すぎなみ」代表



訪問健美美容・すぎなみは、2015年4月15日に発足しました。NPO全国介護美容福祉協会の登録美容師と福祉や医療に携わるそれぞれの専門職者が一体となってチ

ームをつくり、活動させていただき、今年の4月で10年目に入りました。これまで山野学苑美容福祉推進課、NPO理事・事務局の皆様にも沢山の学びをいただきながら、お陰様で、施設様に、在宅のお客様にとチーム一丸となって活動の場を順調に伸ばして参りました。

「訪問健美美容・すぎなみ」が目指すのは、初代山野愛子先生が提唱した「美道五大原則」（髪、顔、装い、精神美、健康美）に基づいて、美容・福祉・医療それぞれの専門職がワンチームになって、高齢で疾病のある方、身体に不自由のある方、お一人おひとりが日々の生活の中で「より美しく」「より健やかに」、個性が輝く質の高い美容を提供し、安全な環境の中で身だしなみやおしゃれを自由に楽しむことができる、そして、お客様が望まれるより良い生き方、その人らしく豊かに人生を過ごすことができる地域社会の構築です。

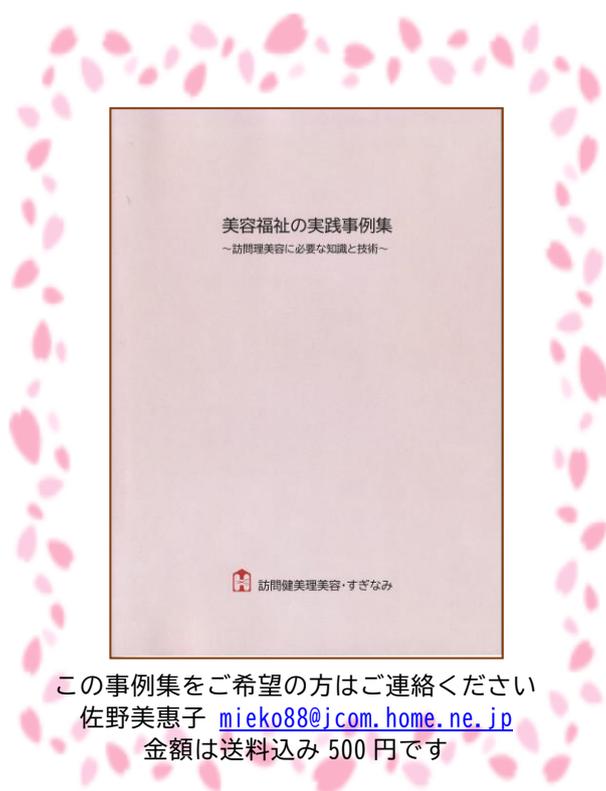
こうした理念のもとで、「訪問理美容事業」は、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの中で、生活支援の一端として捉えられていく必要性を実感しています。

特にコロナ禍を経てからは、感染予防の観点から在宅への訪問理美容サービスが増えています。感染症予防対策で人と人とのコミュニケーションや繋がりが希薄になっている今、福祉と医療の現場では美容福祉の視点からの取り組みが注目されています。その結果、理美容福祉実践の担い手となる美容福祉師・理容福祉師の存在は高く評価され、訪問理美容サービスへの期待が寄せられています。

\*

この度 10年を一つの節目として、美容福祉の専門性を更に高めることに繋がればとの思いで、これ

までの活動を振り返り、在宅のお客様とご家族、訪問先の施設様、地域包括支援センター様にもお力添えをいただきながら「美容福祉の実践事例集」を作成しました。



この事例集をご希望の方はご連絡ください  
佐野美恵子 [mieko88@jcom.home.ne.jp](mailto:mieko88@jcom.home.ne.jp)  
金額は送料込み 500円です

この事例集を手にした皆様から、次のようなうれしい感想をいただいています。

- ① 美容福祉の活動が具体的によくわかった。
- ② 現場の臨場感が伝わり感動した。
- ③ あたりまえに美容室に行けない人にとって、希望を与えてもらえた。
- ④ 多職種連携の大切さが伝わった。多くの人たちに伝えたい。
- ⑤ 美容師としていろんな働き方があると思った。離職率が低くなるように、美容の世界も資格を活かした働き方改革が必要ですね。
- ⑥ 訪問美容を始めるにあたってのテキストとして、このような冊子があるということは大変有り難いです。
- ⑦ とても刺激をいただきました。
- ⑧ 素晴らしい活動を有難うございます。

等々、沢山のエールを頂戴し、新たに施設様や在宅の方への訪問先もご紹介いただいております。

10年目の夢、それは「多職種連携」による美容福祉の構築です。お陰様でこの度、夢を叶えるための大きな第一歩を踏み出すことができました。

これからも「集い」を通じて皆様とご一緒に、更に美容福祉普及に向けて語り合えたら……と願っております。

今後共、引き続きよろしく願いいたします。

\*\*\*\*\*

## 目次

### はじめに

高い専門性を志す美容福祉師&理容福祉師の皆さまへ 10年目の夢「多職種連携美容チーム誕生」に向けて！

### 第1章 なぜ美容が必要なのか

### 第2章 訪問理美容に必要な心構えについて

### 第3章 訪問理美容を必要としている方々をイメージする 福祉・介護から見る～個別性を大切にされた合理的配慮のポイント

### 第4章 訪問理美容に必要な施術前の準備について

### 第5章 美齡ケア実践

事例①居宅＝車椅子でのカット&カラー：発表会で歌う夢をチームケアで後押し

事例②居宅＝床に座位でのカット：すいこ～ムを使用したカットに感動！

事例③居宅＝床に座位でのヘアカラー 初めてのヘアカラーに心もワクワク！

事例④居宅＝椅子でのカット：携帯ゲームを楽しみながらカットにチャレンジ！

事例⑤居宅＝椅子でのカット：美容の日はのびのびと！

事例⑥居宅＝N様の20歳の成人式を迎える衣装のリメイク・ヘアメイクの実践

事例⑦居宅＝看護師として美齡ケアの取り組み：フットケア

事例⑧デイサービス＝椅子でのカット：美容のプロセスに興味津々

事例⑨グループホーム＝椅子でのカット・パーマ：ソバージュへの美意識が元気のもと

事例⑩介護付き有料老人ホーム＝車椅子でのカット：おしゃれは生きる喜び

事例⑪療育センター＝「ありたい美容」の姿が豊

以下、目次と執筆者を紹介します。

15項目の事例研究は、美齡ケア実践の具体例ですので、参考になると思います。

この事例集を参考にして、美齡ケアの質を高めてほしいと思います。

かな生活のアクセントに！

事例⑫特別支援学校における「身だしなみ講座」

事例⑬デイケア＝「セルフハンド&ネイルケア」

多職種連携による美齡アクティビティ

事例⑭居宅＝看護・美容。多職種連携による取り組み ターミナルケース1

事例⑮居宅＝看護・美容。多職種連携による取り組み ターミナルケース2

コラム おしゃれのサポート～フアツシヨンシヨ一の事例より～

研究 活動事例とその効果

おわりに コロナ禍における訪問健美美容・すぎなみの活動

### <事例集執筆者>

佐野美恵子＝訪問健美美容・すぎなみ代表 NPO 法人全国介護美容福祉協会理事

杉浦ゆり＝美齡ケア代表・看護師 美容師 訪問健美美容・すぎなみ講師

岩井 理(みち)＝島田療育センター生活支援コーディネーター

広田恵美＝訪問健美美容・すぎなみ、スタイリスト、訪問美容えみんど

大野淑子＝山野美容芸術短期大学客員教授、訪問健美美容・すぎなみアドバイザー

榎本美幸＝訪問健美美容・すぎなみ、スタイリスト、認知症サポーター

宮寺那奈＝訪問健美美容・すぎなみ、スタイリスト、訪問介護員2級養成研修課程、ヘアケアマイスター

迫 和美＝訪問健美美容・すぎなみ、スタイリスト、美容室 LUSSO 代表

富田知子＝山野美容芸術短期大学教授、訪問健美美容・すぎなみ講師



おかげさまで 10周年！ これからもよろしくお願いいたします



訪問健美理美容・すぎなみ



「訪問健美理美容・すぎなみ」では、現在、杉並区、練馬区、中野区、世田谷区、多摩地区が主な活動の場になっております。来年は2月にオープン予定のグループホーム様への訪問と、支援学校様への「身だしなみ講座」継続も決まっております。現在担当させていただいている訪問の概要は以下の通りです。

訪問先	メニュー	訪問回数	人数
療育センター様	カット	毎月 8～9回	40～45名
介護付き有料老人ホーム様 A 施設	シャンプー カット カラー パーマ フェイスエステ	毎月 1回	8～10名
介護付き有料老人ホーム様 B 施設	シャンプー カット カラー パーマ 美齢アクティビティ	毎月 2回	12～15名
グループホーム様 A 施設	シャンプー カット カラー パーマ	毎月 1回	12～15名
グループホーム様 B 施設	カット	隔月 1回	14～16名
デイサービス様	カット	隔月 1回	8～10名
個人宅様	シャンプー カット カラー パーマ フェイスエステ	毎月 8～15回	10～20名

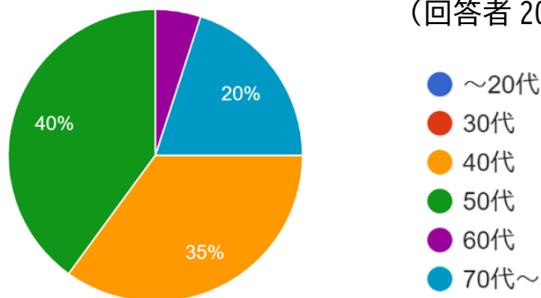
お身体に不自由があるお客様で「自分の体型に合う服や着たい服が着られるようになったら、おしゃれをして出かけられるのに、お気に入りのカットをしてもらっても諦めるしかない」と話される方が多くおられます。そこで、新たな取り組みとしまして、服飾専門職の方や作業療法士の方と連携をして、お客様がお持ちの服をベースに、ファッション性と機能性（着脱が楽、等）を兼ね備えた服にリメイクをする提案をさせていただいております。その結果、髪・顔・装いに対するお客様の満足度が高まり、自尊感情も育まれているご様子で積極的におしゃれを楽しまれています。これからもお客様が求められている課題に耳を傾け、活動の場を広げていきたいと思っております。

(佐野美恵子)

# 第17回登録理美容師の集い 出席者アンケートまとめ

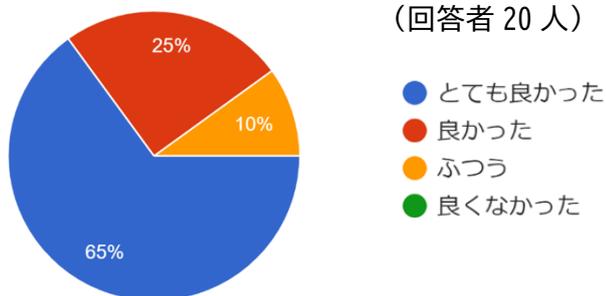
## 1. 参加者の年齢構成

(回答者 20 人)



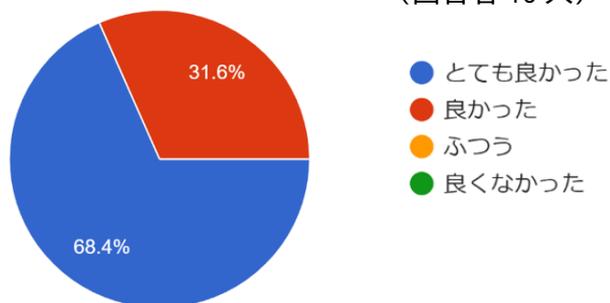
## 2. 「登録美容師の集い」に参加して、いかがでしたか

(回答者 20 人)



## 3. 「美容福祉・美齢学推進のための提案」(大西典子・山野美容芸術短期大学教授)の講演はいかがでしたか。

(回答者 18 人)



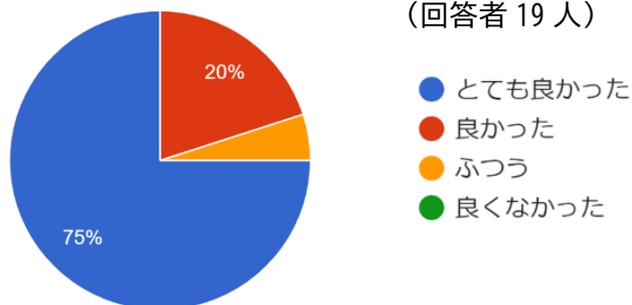
この質問への回答理由をお聞かせください。

- ・介護からの目線だったため、介護の勉強にもなり、また美容との関係、世界の介護との違いなど奥深く勉強する事ができた。改めて考え直す機会になった感じがします。聞いていてとても楽しく、私も空いた時間にグループホームで認知症の勉強をしているのでとても共感出来ました。
- ・データ活用での説明で説得力があり、話し方にユーモアがあって 親しみを感じてました。
- ・美容福祉を専門職として、社会的価値を高めるための仕組み作りや、資格の必要性を以前から感じておりました。実現に向けて、よろしくお願いたします。

- ・美容福祉についての未来が具体的になり、はっきりしていました。
- ・美齢学はもっと福祉の分野に広げても良いと思います
- ・日本と海外で、高齢者の方への施設での生活などの違いがこんなにあるんだなと知って考えさせられました。1人1人の思いがもっと変わらなければと思いました。熱い(!?)大西先生の話いつも楽しく聞かせてもらってます♪
- ・医療と美容福祉は、日常の笑顔とときめきをもたらす重要な役割だと再認識できました。そして、今後は親世代の自立度を下げないように、何が必要か模索していきたいです。
- ・現状と未来図が良く分かりました
- ・説明がとてもわかりやすかった
- ・時代のニーズに合わせて仕事内容をアップデートしていくこと、美容福祉・美齢学についての方向性が分かりました。
- ・これまでの経験や学びを今後どのような方向性で考えていくことが大切になるのかが見えた。
- ・今後の美容福祉に対して取組むヒントがあった
- ・「ホームヘルパー2級」を取得後、直ぐにこの資格が変更になってしまったため、取得した「美容福祉師2級」を今後どのように生かすか疑問に思っていました。「美容福祉師2級」資格を取得して、自信とマナーや心も備えて仕事を行っているとは思っていますが、今一つその資格を生かしきれない環境にあると思う。大西先生の話聞きながら、同じレベルで福祉的な美容を行う地域仲間を増やしていくために登録美容師の会から考えや知識を頂きたいと思いました。大西先生の言葉や熱い思いからパワーをいただくとともに、美容福祉の今までの歩みや今後の展望などが勉強になりました
- ・デンマークには「寝たきり」という言葉がないことを初めて知りました 医療に美容を入れる事の大切さに触れ 私達美容師が出来る事がまだまだ沢山ある事を再確認しました 「人生を意味あるものに」 この言葉に私も共感しています！ 大西典子教授 貴重な講演に参加させていただき、ありがとうございました
- ・これからの日本における福祉理美容師の在り方(ビジョン)が必要だと思います。

#### 4. 「髪がないことをハンデにしない社会」の講演はいかがでしたか。

(回答者 19 人)



この質問への回答理由をお聞かせください。

- ・ご自身が経験されたお話、心に響きます。
- ・サロンでの工作中、実際に突然脱毛になった方、脱毛症でウィッグ使用してる方、癌治療でウィッグが必要となった方々に出会います。それに対して、個別にアドバイスする必要性などを的確に頂けた事はさらなる仕事の見直しともなり、いい機会を頂けた事に感謝しています
- ・このような活動がある事、実は知らなかった。特に女性は悩んでいる方がいるのは分かっていますが、どのようにアドバイスしたら良いか考える機会を得た。
- ・髪の毛がたくさん抜けて、今でもなりそうな時あるけど、自分自身が周りからの見た目をそこまで気にしたことはなかったし、今まで通りの対応でいいのかなと思いました。ただ、繋ぐ事はできるから、対策などを知ったことは良かったと思います。
- ・ヘアロスを抱える方々のさまざまな思いを、多くの事例を通じて学ばせていただけたこと。
- ・全然自分の知識も理解も低い分野でしたのえ、とても勉強になりましたし、更に学びを深くしていこうと思いました！
- ・実際のお客様でも、抜毛症や円形脱毛になってしまったという事もあって、現実どうしてあげたらいいのか、なんという言葉をかけてあげたらいいのか悩んだ事もありました。ですから今回の講演を聞いてとても良かったです。世の中にはたくさんの個性があるんだということを改めて感じることができて良かったですし、ヘアロスで悩める方に、ASPJという素敵な活動をしている人達がいるといことを、紹介したりお話ししたりして、繋げて広げていけたらいいなと思います。
- ・初めてヘアロス当事者の実際の声が聞いて良かったです。そして身近な問題である事を実感しました。

- ・円形脱毛以外に沢山の方々が困っていらっしやるのが分かりました。
- ・知らない世界でした。よく考えると、身近なことだと気がつかせてくれたこと。私にでも何か出来ることがあると気づかせてくれたこと。
- ・本音が聞いて身近に感じた
- ・ヘアロスについて美容・医療からの取り組みでなく当事者目線での取り組みや思いを学びました。美容福祉での取り組み・活動をしたいと思いました。
- ・何となくわかっているようで全く無知だった自分に気付くことができました。
- ・ヘアロスと一言言っても様々な症状がある事。当事者の気持ち、団体の啓発活動が知れた。
- ・私のサロンでは月曜日を午前中訪問美容、午後からハンディのあるお客様と一対一で施術を行っています。大人世代、女性が多いサロンです。髪が抜け、あるいはない事を人に見せたりおしゃれをする事をさけて、ほぼウィッグで生活されている方からの問い合わせでお洒落のアドバイスお手伝いをさせて頂いてます。今回脱毛症の種類や状態に対しての知識不足を感じ、もつと知識を学びお客様の気持ちに寄り添う事をしないで福祉美容師などと言えないと反省をします。またその活動をされている方がいる事も知りました。活動されている姿、笑顔に力と明るさを感じました。そして自分なりにも考え、サロンでの迎え方や接客を考えるヒントを頂きました。
- ・自分のお客様でも脱毛症の方がいたり、病気で髪が無くなって悩める方がいますが、これからの対応策などが分かり参考になりました。
- ・前髪が決まらないだけなのに 1日が憂鬱な気持ちになる……、ヘアセットが上手くいかないといつも洋服が似合っていないように見える……など「髪は女の命」と言われた歴史がありますが 今回の講演に参加させていただき髪にまつわる悩みの幅に驚きました 「髪がないことをハンデにしない社会」 ASPJのご活動は当事者のみならずご家族にとっても支えの場だと感じました。また美容師とヘアロス当事者様を繋ぐ架け橋になりたいとおっしゃっていた土屋光子様の熱意にたいへん共感いたしました。今回の講演でヘアロスについて、正しく理解したいと思いましたし、正しい知識と確かな情報を美容師としても「人」としても学ぶべきだと感じました。土屋光子様貴重な講演に参加させていただき ありがとうございます

- ・人の気持ちに寄り添う、寄り添える人間になつてもつもりでも、当事者の心はそれぞれ違っているけれど、ご本人達から聞くと、周りで悩んでいても明るく振る舞ってる方々、皆さま、葛藤があつての今なのだということ。小学校低学年ごろ、自分も自身の髪の毛を自分で抜いて、脱毛症になった経験もありますが、治療で治ったので、治るといふ観念しかなかった事などを思い出しました。
- ・美容師ですので、ヘア飾りを職にする事もありますが、今回の講演で、ウィッグの悩みなどについて、知識不足だった自分に気がつきました。
- ・理美容師としてえ、知識、技術、対応が問われたことを感じた。円形脱毛症などはサロンで理美容師が見つけて対応してる事が多いと思っていました。

## 5. その他、ご要望等があればお聞かせください。

(回答者 15 人)

- ・ジェーン理事長、福島専務理事、事務局長のお話もとても勉強になるお話で見聞を広めることができました。
- ・今回は午前中等とグループディスカッションの時間が無かったのが少々残念でした。あの時間はいろいろな意見交換にもなり、まだ沢山の方との交流にもなり楽しみにはしていたんですが…。昨年と今年参加していますが内容が奥深くとても勉強になって、また実践にも活かす事が出来ます。先生方々お忙しい中濃度の濃い内容毎回ありがとうございます。感謝しています。
- ・今回は懇親会がありませんでしたが、出席者の情報交換の時間も欲しかった。
- ・今回は知識はプラスになったけど、周りの方とのコミュニケーション時間少なく、みんなの活躍、頑張り、聞いて自分自身のテンションアップが無かったかなと思います。みんなの頑張っている話もっと聞けたら嬉しいです。よろしく願いします。ありがとうございました！
- ・今後ともよろしく願いします！
- ・いつも私達の為に考えて素敵な集いをありがとうございます！集いとしては午前中のこのような形はすごく良かったです。(1日になると参加が難しくなってしまう場合もあるので)ただ最後にお話ししたい人達もいたようで慌ただしいのが残念という事を話してる方もいました。今後もよろしく願い致します。
- ・このような勉強会の機会がもう少し回数多くある

と嬉しいです

- ・ASPJの講義をもう一度、もっと詳しく聞きたいと思います。
- ・山野学苑とNPO全国介護美容福祉協会の情報をいただきたいと思います。
- ・ありがとうございました、企画や準備等大変だと思いますが引き続きよろしく願いします。
- ・ジェーン理事長のお話の中に、たくさんのサロンの中でも言葉には出さないけど大変な時期を過ごして頑張っている方達もいる事、コロナと経済情勢から美容業界の厳しい状況を話されました。美容業界、美容師は人気の職業ではなくなりましたが、人の為に、自分の為に、生涯美容は続ける事が出来ると思います。美容福祉は、健康であれば長く人に幸せを与え美容を通じて元気を与えられる仕事——「私達の手は生きる力を与える事が出来る。」こんな時代だからこそ美容福祉をもっと若い美容師さん、知らない美容師さんに広げていきたいですね。大変素敵な時間をありがとうございました。
- ・時間が短か過ぎかなと。もう少し他の参加者さんなどとディスカッションなどが無いと情報があまり得られないのかなと感じました。他の方々の活動内容など知りたかったです。
- ・もっとたくさんの講義を聞きたいです。
- ・参加者との交流を閉会前に入れるべきと思いました。(まとめ 事務局・村木代志美)

## ◇第17回登録美容師の集い参加者(敬称略)

【岩手県】鶴浦智美、佐野輪二【宮城県】庄子泉【栃木県】川津孝代【埼玉県】上田直実、成田夏子、山田淳子【東京都】五十嵐那奈、池ヶ谷恵美、石川幸恵、伊藤加奈子、伊藤徳子、岩本京子、榎本美幸、大内とし江、小嶋美佳、小川利津子、奥津紀美子、神山明子、河口美香、小池由美子、小林進之介、小堀利花、西條理香、坂口ゆかり、瀬部裕美、田名網恵美子、迫和美、淵上朋世、堀達弥、向井文代、山崎綾子【神奈川県】荻野早苗【長野県】遠山光子【愛知県】夏目久枝【愛媛県】西川智己【アメリカ】安齊宏美【山野学苑】西潔

【理事長】山野愛子ジェーン【副理事長】中川巧スタン【専務理事】福島清【理事】及川麻衣子、佐野美恵子、杉本剛英、七井勝彦、西尾栄、山下玲子【監事・山野美容芸術短期大学教授】大西典子【事務局長】荻野道人【事務局】村木代志美、熊谷真紀



NPO 全国介護美容福祉協会の 2024 年度理事会・社員総会は、6 月 11 日午前 9 時、山野学苑会議室で開催、理事（11 人中 11 人出席）、監事（1 人）、社員（10 人中 2 人）、事務局員 3 人の出席（上写真）で成立、以下の報告・議案（概要）を承認・決定しました。

## 1. 2023 年度事業報告

◆2022 年度の「登録理美容師」登録者=31 人、これまでの総計=1,530 人◆公開講座「美容福祉」技術講習=受講者は、2024 年 3 月 31 日現在で 2,349 人+台湾 2 人、アメリカ 1 人。◆訪問理美容実施状況=麦の会、都立府中療育センター、八王子療護園各施設での訪問施術者総数は延べ 642 人。◆第 16 回登録理美容師の集い=2022 年 8 月 29 日（火）、13:00~15:00。詳細は、NEWS LETTER 第 14 号（2023 年 10 月 27 日付）。

## 2. 2023 年度収支決算・同監査報告

【収入】4,434,339 円

【支出】3,885,036 円【当期収支残】1,116,169 円

【事業税等】181,200 円【当期収支残】368,103 円

【次期繰越金】5,734,471 円

◇監査結果報告=2023 年度特定非営利活動法人全国介護美容福祉協会の予算支出につきまして、関係証拠書類により監査の結果、適正でありましたのでここにご報告いたします。2024 年 5 月 27 日、一般社団法人日本美容福祉学会監事=水野孝平、大西典子

## 3. 第 12 期役員（2024.7.1~2026.6.30）

理事長=山野愛子ジェーン、副理事長=中川巧スタン、

専務理事=福島清、理事=田爪正氣、佐野美恵子、杉本剛英、西尾栄次、山下玲子、栗原麻衣子、七井勝彦、監事=水野孝平、大西典子

## 4. 2024 年度事業計画

### 【活動方針】

①理美容室へ来店困難な高齢者、障がい者、福祉施設入所者、障がい施設入所者、病院入院患者等に対して、訪問理美容を行うとともに、活動の安全向上を図るための普及啓発に関する事業を行い、地域の保健、福祉の増進に貢献するための体制基盤を整備しつつ、積極的な活動を推進する。②登録美容師、自治体、関係諸団体との連絡・調整を密に行うとともに、山野学苑との連携に心がける。

### 【事業の実施に関する事項】

①特定非営利活動に係る事業=「訪問理美容サービスの提供・啓発」「研修・講習」「研究・開発」「広報・広聴」「ボランティア活動」「体制（態勢）の整備」「事務・経理」等を実施する。②その他の事業=訪問理美容福祉機器の販売。

### 【第 17 回登録美容師の集い】

テーマ「美容福祉に求められる可能性」、日時=2024 年 8 月 27 日、会場=山野美容専門学校内

## 5. 2024 年度収支予算（概要）

収入の部=4,440,000 円、支出の部=4,351,000 円、次期繰越金=5,823,471 円

一社) 日本美容福祉学会

## 第23回学術集会ご案内

日時

2024年11月16日(土) 13:00~16:30  
ZOOMによるオンライン開催(参加無料)

<https://forms.gle/d1oAWQD3QHUi8piX7>

お申し込みは  
こちらから



テーマ

「ケアとしての美容と美容福祉・美齢学を考える」

### 講演

大西 典子 「美容福祉・美齢学の人材育成システムの新展開について」  
福井志穂子(株wellsui代表) 「ケアとしての美容を活用した美容特化型デイサービス」  
野中 美紀(株SUMIKIL代表) 「アピアランスケアとして地域理美容室に提案したい  
ウィッグの提供のしかた」

主催 一般社団法人日本美容福祉学会  
日本美容福祉学会第23回学術集会実行委員会

後援 学校法人山野学苑 山野美容芸術短期大学  
山野美容専門学校

協賛 NPO全国介護美容福祉協会

1999年に日本美容福祉学会が設立され、2001年に第1回学術集会在開催されました。そして、今年第23回の学術集会在開催できますのは、みなさまの温かいご支援のおかげです。

さて、今年にはNPOの集いでも提案させていただきましたが、ケアとしての美容として発展してきた美容福祉は、転換期を迎えています。特に長寿社会においては、幅広い対象に「美容×〇〇」の相乗効果を期待した美齢学の発想が必要です。

そこで、今回のテーマを『ケアとしての美容と美容福祉・美齢学を考える』としました。また、本誌にもありますが、再度新展開の内容を大西からお話しさせていただきたいと思ひます。

そして、「美容×リハビリ」として福井様から美容特化型デイサービス wellsui の取り組みをご紹介いただきます。美容特化型デイサービスという新しい展開のしかたは、高齢者の自立機能低下予防として美容を効果的に活用することの意義を示すうえで、とても参考になるご講演になると考えています。

また「美容×医療」としてアピアランスケアの中のウィッグ提供の新展開について、野中様にご講演いただきます。アピアランスケアは、第4期「がん対策推進基本計画」の中で、がん治療を行いながら、あるいは終了して地域で生活を継続する人たちの外見の苦痛に対応するケアとして示されています。野中様は、自らの体験をもとに医療と連携した形で地域の理美容室がウィッグを取り扱い、地域のお客様の継続的なケアにつながる新しい方法を展開されています。地域理美容室が、様々な方に対応していくための美容福祉の新展開を考えるうえで、重要な視点がいただけるご講演だと思ひます。

現在募集中ではございますが、一般演題も毎年多彩なご発表をいただいております。ぜひみなさまのご参加をお待ちしております。また学会入会も併せてお願いいたします。